

拵啓

始めまして突然のお手紙申し訳ございません  
先生の抗がん剤10のやめどきの本を読ませて  
頂き嬉しくなるとついペンを取りました。

私事でありますが、二年前より胃の調子や胸の  
痛みがあり近くのクリニックに通って診てもら  
う。

その検査は何も無く安心してました。  
[redacted]に身内から胃カメラを進められ

思いきって別の病院で胃カメラを飲むと、すぐ  
胃がんが見つかりその時は進行胃がんの3型で

[redacted]紹介状を書き頂き

私は入院、手術を覚悟してました。

その後のCT検査で肺と肝臓に転移していきなが  
ら進行胃がんの4型になり、胃の手術は出来な  
いとの事で、腫瘍内科の方で抗がん剤治療になり

抗がん剤を受けなければ三ヶ月飲んででも一年と  
宣告せよとさよならした。

この程度悪くなるやいなためかといふ事になりましたが。

その時、仕事をしつめたので入院をせよと通院で  
お願いして抗がん剤を始めました。

あまりにも抗がん剤の副作用がきつくと食欲が  
なくなりだんだん体のだるさが一ヵ月でとくに減り

仕事を続ける自信のなくなりやめる事にして  
先生に薬の方をゆるくしてほしいとお願ひ

少づつ食べる事ができ、体の方も楽になりました。  
やはり薬を飲ぶより食べ物で免疫を上げる

ようにして勝手に薬を少づつ減らして飲んで  
います。検査で腫瘍の小さくなるやいな

のが薬を中止して頂くと又十二月の検査では  
少づつ大きくなるやいなため抗がん剤を始めました。

三月の検査でも余り良くななくて少くもなほ  
ソマタマシタ。

先生は薬が合そないかと注射の方を遣うとい  
ました。一年前の副作用の事を思ふと  
受け入れる事が出来ず。

先生はきびしいと言われましてたか。

この一年、苦しみも痛みもななく薬の時間を  
無事過ぎる事が出来たので

ふからば自分の生命力を信じて思ひを  
抗がん剤を止めることを告げました。

毎月の診察はお願ひして又先々苦痛が  
あはば緩和ケアの方にも紹介して下さるとの事と  
安心して薬を止めました。

ともやろく私の方の意見を聞き入めて下さり  
それかともありかたであります。

又、お友達や身内のおかけで今は元気で毎日  
 楽しく過ごしております。

そしてお友達の長尾先生の本を持って来て読んで  
 読ませて頂くと、とても納得できるところばかりで

私の選抜も勇気づけられました。

長尾先生のように患者さんに向き合ってください。

ふは、私達患者にとっても、とても心強くお力になります。  
 ふは、お体にお気を付けてくださいね。先生で  
 下さいます。

長々と私事を書きました。

敬具